

ドキュメンテーション報告

保育を伝える

～クラス便りの充実に向けて、変化と工夫～

お弁当は、まいまいハウスの中で食べました。ミニオンのキャラクター弁当をリクエストした子が多く、色んなミニオンを見せ合いながら喜んで食べていました！午後は神社で秋見つけ。小さいドングリ、大きいドングリ、カニを見つけて大喜び！カニは保育園に連れて帰って飼育しています。大満足の秋の遠足でした。



保小連携活～箱を使って遊ぶ～

本当に乗れる馬を作るんや。足はどうしようかな？ラップの芯と紐を使って転がって動くようにしてみよう！

ワニをつくりたいな。ゴムを使うと声(音)が鳴るで！聞いてな。"お・な・か・が・す・い・た"って言うんで！



日頃の製作からの経験に基づいて良いアイデアを伝え合って活動を楽しんでいます。



年長きりん組 10月号より

2歳児はと組 12月号より

園だより、クラス便りを月1回、保護者・地域向けに発行している。エピソード記録やドキュメンテーションでの記録・可視化と共に、クラス便りの改善、充実に本年度は取り組んできた。

保育室・園庭の環境構成、デイリープログラム、保育者の関わり方等、様々な角度から「保育の質の向上」を目指して保育実践をしている。

子どもを主体に、「夢中になって遊ぶ」「好きなこと・やりたいことをする」「その子の発達をおさえる」等を基本に保育が変化してくると、子どもの遊ぶ様子がより見え、クラス便りの内容も変化してきた。「ありのままの子ども」の「遊びからの学び」「保育者の意図」等を書き込み、写真を添えて構成し、クラス便りを作成している。文字ばかりのクラス便りより、「保育の見える化」になっていると思う。

子どもが夢中になって遊ぶ姿が見えてくると、記録もより具体的に書けるようになってきた。職員同士読み合ったり、伝え合ったりする機会も増え、ひとり一人の発達を共有出来てきている様に感じる。

改善点としては、子どもの学びや遊び、感動したエピソードを、もっともっと週日案に記録し、様々な記録も見直し、整理・分析することである。

1年生・5歳児 連携活動 10月 「卵が生まれる」

遊び(活動)の展開

箱を使っでの連携活動1回目。この日は1年生・年長児のそれぞれ集めた箱、材料を持ち寄り、グループ毎にどんな物を作るのかを考えた。

K君のグループはブラキオサウルスを作ることにした。1年生を中心に箱を組み合わせている中で、K君はダンボールを切って坂にし、トイレットペーパーの芯を転がしていた。上手く転がせるように坂の角度は高すぎず低すぎない丁度良い角度である。

保育士がそのK君の姿・工夫内容を捉え、グループ内の友だちや1年生へと繋げていくと、K君の工夫は「本当に恐竜から卵が生まれると面白い」と認められ、取り入れることになっていった。

この図鑑みたいなブラキオサウルスを作ろう！

この箱で何が作れるかな？



首が長いからこの箱を使ったら良いと思う

トイレットペーパーの芯を転がす坂道を作るとるんや

上手く転がったおもしろい！



坂の角度をよく考えたね。このアイデアをブラキオサウルス作りに使えないかな？

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

周りの様子を伺いながらトイレットペーパーの芯を転がす遊びを始めたK君。その様子を見守りながら、どうしたら友だちや1年生との関わりが進んでいくのかと悩んでいた。K君の「転がる面白さ」を認めて伝えていったことで広がり、「恐竜の卵にしたら？」と展開した。K君の製作意欲は強く、連携1回目・2回目共、転がる部分に費やしていた。アイデアの面白さ・転がる部分に対するこだわりや思考力、継続する力を認めるようにしていった。

考察(育ち・学び)

K君の「転がる」事への興味の高さと共に、どの様にするとよく転がるのかを考え、試し、修正を繰り返して取り組んでいる姿に感心した。この「転がる」事への興味関心は毎日の遊びでの、ドングリ転がし・キャップ転がし・樋での水流し等、様々な経験が繋がりと、展開していると考えている。どの位の角度にするとよく転がるのか(角度)、ダンボールを上手く折り曲げて三角形の坂にする部分には、本児の工夫が見られる。出てくる穴も丁度トイレットペーパーの芯が出てくる大きさになっている。「これ位の穴にすると、引っかからずに転がって出てくる」ことを予測して、確かめて作っている事が良く判る。私たち保育士は、この気づきや発見を肯定的に認め、友達や異年齢に繋げ、発展していけるようにしていくことが大切だと思った。

これからの保育

子どもたちが、現在何に興味関心を持っているのかを保育士は把握・予測し、その遊びや活動が変化展開していく事をじっくり観察することが重要だと思う。子ども自らが気づき、見つけ出し、創り出す主体的活動は、どの場面でも尊重し重要であるが、保育士のカリキュラムと環境構成、素材・教材の準備等は、保育者の意図としてポイントとなると感じている。

保育士が予測していたことや想定外の展開となったときほど、子どもを理解し共感していくよう、保育士同士も語り合い、子ども達と共に、保育を創りあげていきたいと考えている。その様な保育者集団でありたい。

さくら保育園 ひまわりぐみ (3才児)

準備中...
お風呂にあるものを思い浮かべて製作中...
保育者が作ったシャワーを見て、自分で作ってみたい。と希望しています。

製作中...
保育者がボールをたくさん用意して、製作活動に興味を持てるようにしています。以前の経験から、温泉を作り、お風呂で遊ぶことが楽しかった。と話をしました。

遊び中...
お風呂に入りたい。と声を上げています。

お風呂中...
シャワーで遊ぶ。お風呂に入りたい。と声を上げています。

温泉の準備は新聞紙を着け、お風呂に入ると表現！

温泉の準備は新聞紙を着け、お風呂に入ると表現！

温泉の準備は新聞紙を着け、お風呂に入ると表現！

温泉の準備は新聞紙を着け、お風呂に入ると表現！

ともだちとの関わり

～ここあそびを通して～

模倣

プール遊びが大好きな3才児。お風呂に入りたい。と声を上げています。

お風呂中...
お風呂に入りたい。と声を上げています。

お風呂中...
お風呂に入りたい。と声を上げています。

工夫

今回は保育者がさきかけ作りをして遊びを展開していたが、今後は子どもたちが自分でイメージしたものを表現できるようにしたい。してほしいと思う。その中で普段の生活の中での経験がより、多くのイメージへと繋がると思われるので、今後も様々な活動を取り入れることを大切にしていきたい。

3歳児 ひまわり組 8月 「ともだちとの関わり」

遊び(活動)の展開

ほんとだ!! みんなの言うとおり温泉みたいだね

外出ると寒いね 暖かいところで温泉入りたいね

シャワーですよ

ゴソゴソしょーっと

プール遊びが大好きな3歳児。プール最終日は寒い日でプール中止の予定だった。子どもたちが最終日のプールを楽しみにしていたので、急遽簡易プールにお湯を張ってプール遊びをした。すると「温泉みたいやなあ」との声が出て温泉遊びで盛り上がった。

お風呂はあったかいなあ

赤ちゃんも一緒に入ろう

お背中流しますよ

ここ、くっつけんと水が出ていくで

いっぺんに入ったら壊れるから順番にはいる

後日、保育士が作るシャワーから発展し温泉作りが始まり、お風呂で使うものを作ったり、お客さんになって入ったりお友だちや保育士の背中を流したりとお風呂での模倣やプール遊びでの経験が見られた。

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

盛り上がった温泉あそびが屋内遊びに発展しないかと、ダンボールやビニール袋等の材料を用意して部屋に置いてみた。シャワーを作る様子を子どもたちとの遊びの中で一緒に見せることで、温泉への興味・関心や製作への意欲に繋がるとを想定していた。

考察(育ち・学び)

身近なお風呂というテーマでシャワーやタオルなど道具を使って母と子どもの関係を模倣して遊ぶ姿やプールでの一コマを保育士役と園児役に分かれて模倣する姿が見られた

「協同性」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」

プール活動から「暑い」「寒い」という気候、「温かい」「冷たい」という水の温度を肌で感じることで、自然への興味や言葉の意味が体験を通して豊かな感性や表現力が養われていった **「自然との関わり」**

どうしたら温泉の水は外に出て行かないのか? シャワーの水はどんな風に流れていくのかを考えたり、工夫しながら温泉の湯船を作っていた 水はポリ袋に新聞紙を詰めることで湯量を表現していた **「思考力の芽生え」**

一度に入ると湯船が壊れると思った子は「順番にはいらんと壊れるで」と友だちに注意をする 「ほんまやな、赤ちゃんからはいらんとあかん」と人形の赤ちゃんに場所を譲った

これからの保育

保育士きっかけで遊びが発展していったので、今後は子どもたちが自分たちでイメージしたものを表現したり、子どもたちの言葉をひろって次への興味関心へのアンテナを張って、遊びを発展していきたい。普段の生活の中での経験が、より多くのイメージへと繋がると思うので、今後も様々な活動を取り入れることを大切にしていきたい

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	--------------	------------------	-----------	----------

2歳児 うさぎ組 1月 「雪あそび」

寒くなり雪が沢山降ったので雪遊びをする事にしました。

ゆき～！ 今日天気は何か？

ゆきだるま！ たまご～！

かみナリ？

雪で何作る？

トンネル～ おうちもつくる！

準備中・・・

外に行く前に何をやるのか？ 準備はなにをしないといけないのか？など話をしてから外に出る事にしました。皆で話をする事で雪遊びへの期待がぐくまれます。

せんせい、みて～！

じぶんでできるで！

みて～ かわいい？

自分で出来る事は自分でやるようにし、出来ない子は少し保育士がお手伝い！！

『出来た！』を沢山経験することで諦めずにやり遂げた達成感・満足感を感じ自信を持つ事に繋がります。

さあ、外へ！！

どんな音？ 「ガシガシ」ってゆうとる

あるいたらおとがするで！

まずは保育士の後につき、歩いて雪の感触を確かめました。沢山の雪に足でふみしめる子、手に取って口にもっていく姿も・・・いつもと違う足の感触に大はしゃぎ！！

それぞれの遊びを見つける子どもたち

お友達をソリに乗せて引っ張っています。お友達を変えてソリタクシーをしている子もいます。

のって下さいー

ひっぱって～

おもたいなあ...

あ！あながある！

ここ、おうちやー

穴を見つけて『ここをお家にしよう。』と話していました。

A君

おやまがあつた～！

B君

ぼくものぼろ～

登っていると...

年長児が作ったかまくらの上を登っているA君、B君も「ぼくも登る。」と言って登り始めました。A君は手を使わずに登れたのですが、B君は足だけでは登れず手を使って登っていました。

ソリ遊びを発展させて「大きなカブ」の劇をしている姿も！

おじいさん ひっぱって～

おばあさん いくよ！

◆まとめ◆
今回の雪遊びを通して自然を感じる事ができ、雪の感触を楽しむ子や遊びを発展させる姿も見られた。準備も積極的に自ら行うなど自立心も見られとてもいい経験となった。

2歳児 うさぎ組 1月 「大きなカブ」

遊び（活動）の展開

園庭にたくさん雪が積もったので雪遊びをする。

一緒に遊んでいた年長児が、ソリに友達を乗せて引っ張って運んでいるのを見て、同じ様に真似して遊び始めた。しかし、年長児のように思うようにソリは動かず、引っ張っても滑って転んだり、乗っている子もひっくり返ってしまった。引っ張っても動かない、という動作を繰り返しているうちに、一人の子が先月のお誕生日会で行われた劇「大きなカブ」を思い出した。役になりきってセリフを言った事がきっかけとなり、子ども達のごっこ遊びが始まった。そして、引っ張ってくれる仲間を呼べばいい事に気づき、近くにいる友達にも声をかけ一緒に引っ張り始めた。

うーん。ぜんぜん うごかないなあ。

うんとこしょ、どっこいしょ。おもたいなあ。

おじいさん がんばれー！

だいじょうぶ？

わあ～ こけちゃった～！

ぼくが てつだってあげるわ～

♪カブをひっぱるおじいさん～

だれか てつだって～

あ！うごいた！

保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

- ・劇遊びへ発展していく中で、子ども達のやり取りを大切にしつつ、一緒に掛け声をかけ、歌をうたうなどして遊びを見守る。

考察（育ち・学び）

- ・引っ張ってもうまくいかないという経験から、一つのお話へと繋がっていき子ども達同士で考え、工夫し行動する姿が見られた。

これからの保育

- ・年長児の模倣をしている事もあり異年齢交流を増やし、関わりを持つことで豊かな感性と表現しようとする意欲を育てていきたい。

粘土あそび

H30.01.18
うさぎ組

粘土あそびが大好きな子どもたち。
「粘土したい!」という言葉から
この日も粘土あそびが始まりました。

保育者の机に道具が置いてある
ことに気が付いたTくん。

興味・関心
「あ! これしたい!!」
これを聞いた
みんなも...

「じゃーん!」
「みてみて〜 おもち!!」
「喜び」を伝える

「どなた? どなた?」
「ギザギザの
へらごうしたリ...」

道具の使い方を
言試し中...

型に粘土を
つかこんだり...

型抜きに挑戦

「どうするの?」
「こう?」

へらを使って料理をしたリ
お弁当
作ってくれる!
(作ってあげる)

型を置いて
グーッと押し
みる

このあたり各先生に
「これはOO先生の!」と
話していました。

このやりとりを近くで見ているSちゃん。
Sちゃんもやってみることに...

「見て学ぶ」
「あれ?」

型をグーッと押し...

型を押しこめぬけず...

工夫

「もう一度挑戦」

「集中」

今度は裏返し
型の外側を押し
みました。

型の外側にある部分を
取って...

「できたー!!」

「要求・思いを
言葉で伝える」
型の貸し借りをする姿も
見られました。

「ありがとう。」
「いーいよ」
「ありがとう。こ!

お友達が持っている型が欲しいMちゃん。
「これかーして」
「ありがとう。」

<考察>
何も言わずに勝手に玩具を取り、取り合いになることがよくありますが、この時は貸し借りのやりとりをする姿が見られました。後には友達と分け合ったり、順番に使ったりするなど、決まりを守る力が育ってきていると感じました。

<考察>
保育者とお友達が型抜きに挑戦している姿を近くで見ているSちゃん。一度目は思うように型が抜けませんでしたが、自分でどうしたら型抜きができるかを考え、工夫する姿が見られました。自分で試してみようとする力が育ち、自分の力で乗り越える達成感を味わうことができていました。

2歳児 うさぎ組 1月中旬 「粘土あそび」

遊び(活動)の展開

Sちゃんは、お友達と保育者が型抜きをしている様子を見ていた。自分の粘土に型を押すが、上手く抜けない。今度は裏返して型の外側を押してみる。そのうち外側の粘土が取れ、型抜きをすることが出来た。



あれ...?



自分でできたね。すごいねー!!

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

型抜きを出すことで遊びが広がると考え、この日初めて型抜きを出した。Sちゃんは保育者の手を借りずに自分でやりたいという思いが強い。その思いを汲み取り、見守ることにした。

考察(育ち・学び)

一度やってみた方法では出来ず、別の方法を本児なりに考え、工夫し、挑戦している姿は「思考力の芽生え」につながっている。

これからの保育

繰り返し成功体験を味わい、十分に遊びの満足感を得られるようにする。

おともだちと... 〈ゆりぐみ 3歳児〉

ねらい... 同じ目的に向かって協力する。
一緒に考えて、やってみようとする。

石少場で...

① ここに砂もってこー

② おやまのついで!

③ トンネルついで!!

④ ほくは、こちからするぞ!

⑤ ぼく、こちから!

⑥ あ!!

⑦ 繋がったー!!!

⑧ 繋がったー!!!

⑨ 繋がったー!!!

⑩ 繋がったー!!!

⑪ 繋がったー!!!

⑫ 繋がったー!!!

⑬ 繋がったー!!!

⑭ 繋がったー!!!

⑮ 繋がったー!!!

⑯ 繋がったー!!!

⑰ 繋がったー!!!

⑱ 繋がったー!!!

⑲ 繋がったー!!!

⑳ 繋がったー!!!

㉑ 繋がったー!!!

㉒ 繋がったー!!!

㉓ 繋がったー!!!

㉔ 繋がったー!!!

㉕ 繋がったー!!!

㉖ 繋がったー!!!

㉗ 繋がったー!!!

㉘ 繋がったー!!!

㉙ 繋がったー!!!

㉚ 繋がったー!!!

㉛ 繋がったー!!!

㉜ 繋がったー!!!

㉝ 繋がったー!!!

㉞ 繋がったー!!!

㉟ 繋がったー!!!

㊱ 繋がったー!!!

㊲ 繋がったー!!!

㊳ 繋がったー!!!

㊴ 繋がったー!!!

㊵ 繋がったー!!!

㊶ 繋がったー!!!

㊷ 繋がったー!!!

㊸ 繋がったー!!!

㊹ 繋がったー!!!

㊺ 繋がったー!!!

㊻ 繋がったー!!!

㊼ 繋がったー!!!

㊽ 繋がったー!!!

㊾ 繋がったー!!!

㊿ 繋がったー!!!

お山作りに、最近ハマっている子どもたち。日に日に、山が大きくなり、「トンネル作り!!」と提案。作ることも、2人から3人...4人...と増え、子ども同士で考えたり、相談したり。疑問に感じても、保育者に頼らずどうしたらいいか考える姿もありました。遊びを通じ、子どもたちの中に、たくまの力が育っているように感じ、とても嬉しく、ほほえましかったことに。

かんせい! イェー!

達成感 喜び

3歳児 ゆり組 12月 「おともだちと...」

遊び（活動）の展開

砂遊びが好きな子どもたち。「お山作ろう」の言葉かスコップを持ち、砂山を作り始めた。だんだん大きくなってくるとA君の提案により固め始めた。固まった山に次はトンネルを作ろうと小さいスコップを用意し、両サイドから掘る。繋がったかどうか何度も確認し、掘り進めていくと、ついに繋がったトンネル。すぐに電車のおもちゃを通そうと試みるが、穴の大きさにより通過しなかった。子ども同士で考え穴を大きくし、見事、貫通した。



保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

- ・日々の生活の中で、友だちとの関わりが増えてきたため、子ども同士で考えたりやってみようとする姿を見守る。

考察（育ち・学び）

- ・何度も砂遊びをする中でトンネルは大きな山にし、固めると掘れるということに気づき、「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」が見られた。
- ・友だちと協力して作り上げる「協同性」が感じられた。

これからの保育

友だちとの関わりが増え、考える力がついてきているため、思いを言葉で伝えられる機会を増やしていく。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	-----------------	------------------	-----------	----------

ぷるぷる～ 寒天遊び

2歳児
りすぐみ

きっかけ
りすぐみになり、粘土遊びが始まりました。ちぎったり、丸めたり、のびたりする中で、形の変化に興味を持った子どもたち。そこで、初めての素材、寒天遊びに挑戦しました。

発見
異年齢児との関わり

興味・好奇心
ドキドキしながらさわった寒天。そこから、それぞれの遊び方に広がっていきました。

挑戦
手で作って

豊かな感性・表現
ジュース、アイスクリン、ジュース、アイスクリン

思考力の芽生え
2つの器を組み合わせて上下がごまにすると、粉がふさができることを発見しました。

発展
1人での遊びから友達との遊びに変化していきました。

まとめ
・触った感触から、次の遊びを考え、そこから友達との遊びへと広がっていききました。
・見立てる遊びの中で、保育者や友達と会話のやりとりをし、自分の思いを言葉で伝え合うことを経験しました。

発展

遊び（活動）の展開

室内遊びでは、粘土や新聞紙遊びなどで、ちぎったり丸めたりといろいろな素材に触れ感覚遊びを楽しんだ。

園庭では砂遊びが大好きで、暑くなると砂場での砂遊びから、水遊びや泥んこ遊びへと遊びが広がっていった。

そこで、年少児と一緒に初めての素材「寒天遊び」を楽しんだ。最初は初めての寒天の感触に躊躇する姿も見られたが、昨年寒天遊びを経験している年少児の遊ぶ姿を見て徐々に寒天に手を伸ばし、寒天遊びを楽しむことができた。



保育者の関わり（ねらい、意図、環境）

砂遊びでも、料理に見立てての友達とのやりとりが増えてきたので、素材や感触の違いに気づき遊びが広がると考え寒天遊びを設定した。一度経験している年少児と一緒に活動することで、遊びの発展を期待した。

考察（育ち・学び）

最初に色とりどりの綺麗な寒天を並べ、目（視覚）で楽しみ、次に手（感触）で触ってみて、プルプル感を楽しむ。その後、色を混ぜて色の変化を楽しんだり、色や形から食べ物に見立てて遊んだり、友だちと一緒に分け合ったり、ゼリー屋さんになったり遊びが広がった。

これからの保育

いろいろな素材に触れることで、感触の違いを感じる体験を重ねていく。
異年齢でのかかわりから、イメージを共有し、言葉でのやりとりを増やし次の活動へとつなげていく。



5歳児 ひまわり組 1月 「冬ってふしぎ!」

遊び(活動)の展開

園庭に積もる雪が氷になったりつららになっている様子に気づき遊んでいた子が、他の友だちにも伝えたことで、雪や氷を探ることが始まった。様々な発見の中、次は氷を作りたいという話が出る。ままごとのカップを取りだし水を入れ、各々園庭の好きな場所で凍らせてみることにした。

翌日氷ができたことを喜び見せ合う子どもたち。しかし、トンネルの中や屋根の下は凍らず、不思議だという話が出た。なぜ?と話し合い「トンネルは風がガードされとんや!」「だから風が通るところがよく凍るんや!」という意見が出たことで、友だち同士で共有し納得することができた。

次は氷を作ると意気込む子やカップの中にドングリや落ち葉を入れ、工夫したり友だち同士アイデアを出し合う子もいた。氷は全部が凍ったわけではないが、表面や中身が凍ることを喜び、また、中に入れたどングリが動く様子にも興味を持ち、友だちと見せ合う姿が見られた。



ガラスみたいや!

向こうがみえる!

クッキーみたい!

大きなコンタクトレンズ!

葉っぱも中で凍った! 氷は模様ができたで!

見てみて! どんぐりが中でゆっく動くんや! ゲームみたい!

保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

子どもの発見や気づきを大切にしながら、気温による変化や雪・氷を発見し、作ってみたいという意欲が持てるよう話をした。

子ども達の「なぜ?」を大切にし、納得できる話が出るまで見守り、助言した。

考察(育ち・学び)

カップに水を入れ外に出しておけば凍る!(自然とのかかわり)・・・という思いが崩れたが、そこになぜ!?(思考力の芽生え)という思いが生まれ、友だちと一緒に理解しようと話し合う姿が見られた。

(言葉による伝え合い)

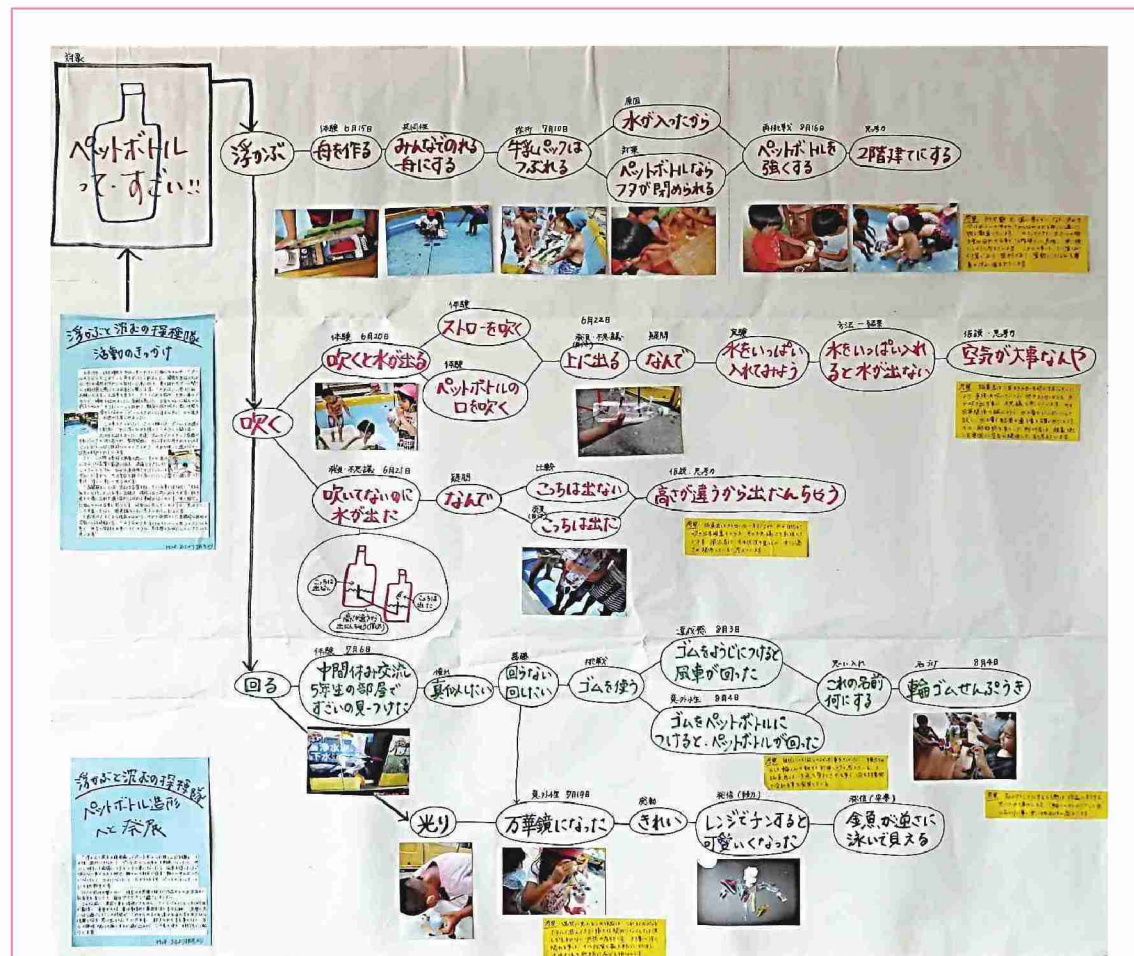
理解したことを行動に移し、また前回とは違うことをしたい(思考力の芽生え)と子どもたちで考えどングリや落ち葉を水に入れ凍った様子や中のどングリが動く様子を満足そうに見て友だちと会話を楽しんでいた。(協同性、豊かな感性と表現)

これからの保育

様々な事に対して、子どもたちの気づきを大切に、自分たちで考えたり遊びを深める中で理解したことが小学校の学びへとつながるよう共感し、助言していきたい。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	--------------	------------------	-----------	----------

5歳児 さくら組 6月～ 「ペットボトルって凄い」



6月14日、保育士と共に外のはき掃除をしていたユイナが「プール掃除しとこか」と発した。プールのよごれに気付いたことに加え、夏の訪れやプール開きへの期待感を感じての発信だと察し、「それはいい考えだね、お願いします」と返す。ユイナがプール掃除を始めると、それに気づいたルイ、ミュ、リコも「やりた〜い」と加わり、その後もどんどん仲間を増やしながらプールを綺麗にし、一足早い水遊びを楽しんだ。

この事をきっかけに、さくら組ではプールでの遊びを計画。「水に浮く物を探してこよう」と話し合った。

次の日からたくさんのプラスチック容器や牛乳パックが持ち寄られた。最初に子どもたちが目つけたのは「浮かぶ」というキーワード。水に浮かぶ舟 → 皆で乗れる舟 → つぶれる → なぜ → 改良 → 強くするための試行錯誤と発展した。形や数、又、固い柔らかいなど沢山の素材の中から「皆が乗れる舟」に適したものを厳選していた。これらの事は、たし算でありかけ算であり図形であり算数の学びにつながる要素が沢山ふくまれていた。

続いて「吹く」という遊びが始まった。「吹くと水が出る」という現象をストローを吹いたり、ペットボトルの口を吹いたりしながら楽しみ、よりと遠くへ飛ばそうとするうちに、6月22日「空気が大事なんや」の記録に残る遊びがみられた。別の場面では「吹いてないのに水が出た」という不思議も発見し、ストローの一方だけから水が噴き出す現象をとらえ、そこに高さに関係していると因果関係を導き出した。

その後ペットボトルの底が万華鏡になったり、竹串をさして両端にフタを付けて車になったり、風車を作ったけれど回らないことで工夫を続け、輪ゴムの動力で回す「輪ゴム扇風機」になったり、コマになったり、いかだ作りやペットボトルアートにも発展していった。

5歳児 さくら組 (6月22日) 「空気が大事なんや」

遊び(活動)の展開

アヤノは、ペットボトルに差し込んだストローを吹きペットボトルのふたに開けた穴から水をとばし、水の勢いを試している。オウタは、ペットボトルの飲み口を吹いてストローの方から水をとばし、勢いと共に水の動きを見ていた。他の子ども達も皆、ペットボトルをやや下へ傾け、前方にとぶ水の行方を追っているようだ。

タクマは、そのペットボトルを手のひらで受け、水平に持ちかまえた。ペットボトルの底に開けた穴からさし込んだストローを吹いている。ペットボトルの上に向いた方には、6本のストローが色々な長さに切って刺してある。タクマがストローを吹きながら「上に出る、なんで?」と驚きの声をあげた。これまで1本のストローから前方にとんでいた水が6本のストローすべてから上に向かってとび出しているのである。何回も繰り返し披露するうちに、ペットボトルの中の空気に目をとめたタクマは「水をいっぱい入れてみよう」と水を入れ、その空気をなくしてみた。すると、ストローからは水が出ない。それを見ていたサクは「空気が大事なんや」とさげんだ。



保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

- ・製作素材については耐水性について考えるきっかけとなる物を揃え、色や形、大きさについても比較する事をみこし、様々準備する。
- ・製作の場所と水遊びの場所の動線に配慮する。
- ・一人の発見を全体へ発信するふり返りの場面を持つ。

考察(育ち・学び)

吹く事により穴から水が出る事に興味を持ち、穴をあけたり、そこにストローをさし込んだりして、色々な所を吹き、水の出方を試している。タクマは水のとび出し方について更に興味を持ち、上に向かって水が出る事に気付く。「なんで」と疑問を持つ事で「水をいっぱい入れてみる」と実験し「水をいっぱい入れると水が出ない」と結果を出す。結果を見ていたサクは、水が出る事には吹くことだけでなく、ペットボトルの中の空気が関係していると考えている。

これらの事は対象に積極的に関わる中で、より深い興味をいだき不思議に思った事を探究する「思考力の芽生え」であり、その中で水の量やそれに反比例する空気の量について比べたり考えたりする「数量の感覚」につながっている。又、友達との「言葉による伝え合い」により共に感じたり考えたりの姿がみられる。

これからの保育

ペットボトルを対象物とし、水を使った活動から、風を使った活動、光を使った活動と幅を広げると共に、電子レンジを使って変形させたり、フタをコマにして遊んだり、対象との深まりをつなげていった。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量・図形、文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
----------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	-----------------	------------------	-----------	----------



0歳児（たんぽぽ組）クラスだよ！

2018、1月 ルンビニ保育園

【子ども達の様子】

27日の発表会では、初めての舞台発表！！
発表会での表情や仕草も一場面！
いつもと違った緊張感の中、いかがでしたか？

何でも初めてのたんぽぽ組の子どもたちです！
そんな姿を色んな場面で紹介します！
ぜひたくさん観てもらいたいです！



と雪が降りスーと消えていきました！

*そんな雪をお部屋で待って
いてくれた
おともだちのもとへ！
手で触ったり、
おままごとの
スプーンですくったり

お空からのプレゼントに触れてあそびました！！
(自然物に触れてあそび五感のアンテナをはり、感じ取っています！)

11月から遊び始めた「塩」あそび！！ 寒くなったのでお部屋で遊んでみました！



カップやコップですくろう！
(底を利用する事の気づき)



スプーンですくろう！
(柄の部分を持とうまくくえ、
手首を返すと上手に入ることの体得)



塊をすくろう！
(遊びの中で自然と下手持ちに)



「ストン」



☆牛乳パックを使ってテーブルを
作っていた事です！
また、上をささいに動かした
作りかけの穴の中にラップの芯
を差し込んで遊んでいました！
そんな子どもたちの遊びから生
まれ、おもちゃの一つになりま
した！！
いろいろな物を入れたり
出したり！

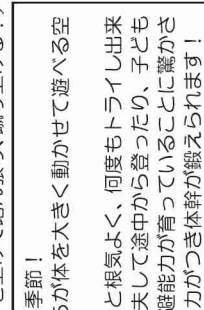
(握って、離す！ 指でつまんで差し込む！ 自分でどこに入れるか選ぶ！)
こんなに幼くとも、見えます！ 考えます！



段ボール箱の
トンネル！
滑り台！

(足の指の腹でしっかり接面をとらえる！)

(おしりを上げて踏ん張り、蹴り上げる！)



お部屋遊びが多くなる季節！
それぞれの子もたちが体を大きく動かして遊べる空
間を作ってみました！
想像していたよりずっと根気よく、何度もトライし出来
るようになったり、工夫して途中から登ったり、子ども
たちの発想力、危険回避能力が育っていることに驚かさ
れました！ 全身の筋力がつき体幹が鍛えられます！

(手と腕を突っ張り、足でよじ登る！ 狭くて長いトンネルを進む空間の認識の育ち！)



2月の【ねらい】と(内容)
【ねらい】 身体を動かして元気にあそぶ
(内 容) ・ボール遊びや階段、滑り台、トンネルあそびをする
【ねらい】 相手とのやり取りを味わう
(内 容) 触れ合い遊びや簡単なこっこあそびをする

*お布団持ち帰りは 2月2日・16日です。お願いいたします

0歳児 たんぽぽ組 1月下旬 「うんとこしょ！どっこいしょ！ばあ！」

遊び(活動)の展開

12月の作品展で使ったたくさんの段ボール箱をお部屋に持って入ると中に入ったり上に乗ったりトンネルにしたり思い思いに遊び始めた子どもたち！最初は段ボール1個のトンネル！子どもたちの遊ぶ姿から日に日に大きくなりとうとう滑り台もつきました！

日を重ねるごとに上にいる子どもたちが増えていきました

暗くて長いトンネルも入り口で何度も躊躇していたのにお友だちが滑り抜ける姿に自分で進み始めていました。出てきた時の表情は「ばあ」の声と共に格別でした

最後に出来た坂はハイハイポーズの四つん這いで踏ん張ります！

見ているだけで子どもたちの音にならない声が、息遣いが聞こえて来よう！

日々、子どもたちの変化が楽しみです！

春を迎える頃にはどんな遊びが広がっているのか楽しみです！！

今度は登るよ



この踏ん張りをみてー！



よーし
いってみよう！

ばあ！



くらいな～



保育者の関わり(ねらい、意図、環境)

園庭でのびのびと遊んできた0歳児の子どもたち。気温が低くなり、地面が濡れていることも多くなり歩きはじめの子やハイハイの段階の子たちが心地よく遊びを通して粗大運動を楽しむ環境作りを模索していた頃12月の作品展後に出たたくさんの段ボール箱の廃材の山の中で自分から遊び始めた子どもたちの姿を見て、「遊びの素材」を段ボール箱にすることにしました。段ボールの肌触り、クッション性、質感、何より手軽さも大きな魅力でした。

子どもたちの個々の活動を観察しながら、少しの負荷を考慮しての遊び場の始まりです。

考察(育ち・学び)

- ・暗くて、長く狭いトンネルをくぐるためには、自分の体と箱の大きさとの空間認知力(物体の位置・方向・姿勢・形状・大きさ・間隔等)が育っていなければくぐって行けない、最初はうまく体を丸められず背中が伸びて上につかえ進めなかった。どんな姿勢で進み続けなければならないのかを何日も、何度も挑み続け体得したものだった。
- ・四つん這いの姿勢は首、肩や腕、手、背筋、腹筋、足の筋力をつけ、体幹の鍛えとなり、バランスをとるのに不可欠な物を培う、歩きはじめの本児のみならず様々な発達段階の0歳児の子ども達にとって遊びを通して良い刺激となっている
- ・ミカンの段ボール箱2個分という高さにも関わらずその上によじ登ったり、上に立ち上がったところから予想していたより運動意欲が高く、危険回避能力も育ってきていた。
- ・つぎはぎになっていた接面や段差を自分で見つけ、感じ、考え工夫しながら、少し困難な状況も失敗しながら達成する姿が見られた。

これからの保育

「自分もやってみたい」「うまくいかない」「できた」個々のそれぞれの発達や性格を大切に、どう達成していくのか、そのプロセスを見守り子どもと共に喜びを共有しながら、安心してあそびこめる環境を子どもの姿からひろっていきたい。